

3学期をひときわ輝かせるために

学校長 杉森 伸吉

令和2年度の3学期、いよいよ「コロナ元年」の締めくくりの学期となりました。この学期を、皆様にとって、最高の学期にすることが、菊の園の当面の課題と目標です。

昨年度は、2月末に緊急全校休校になりましたが、今年度は、まだまだ予断を許さないとはいえ、コロナ対策をしっかりしながらも、例年と同等以上の活動ができるように、教職員も菊の子たち、保護者の皆様と一丸となって進んでいきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

子どもというのは、いつの時代も、未来を作る存在です。ですので、今置かれている時代状況などを敏感に感じながら、将来どう生きるかを、自覚的にせよ無自覚的にせよ、考えているのだと思います。たとえば、将来就きたい仕事のアンケートを見ますと、バブル期にはプロ野球選手などのハイリスク・ハイリターンな職業が人気でしたし、バブル崩壊以後は、ローリスク・ローリターンの堅実な仕事の人気となったのではないかと思います。

今年度のコロナ禍では、自粛活動が進むことで、非常に困ってしまうお仕事や、逆に需要が増えるお仕事などが、浮き彫りにされてまいりましたが、そのことだけを見て将来を考えると、少し偏った考えになるかもしれません。将来も、さまざまな変化が起こりますが、どのような変化が起きたときには、どのような職業がどのような影響を受けるのか、ということも含めて、あれこれと話し合われるのもキャリア教育としていいのではないかと思います。

また、どのような職業に就くにしても、必ず浮き沈みはつきものであろうと思っておりますので、浮き沈みを生き抜くために、どんな考え方や生活習慣が必要なのか、などを考えてみるのも、いいのではないかと思います。

平常時では気づけなかった、「当たり前だと思っていたことも、実は当たり前ではないのだ」ということを実感できたことは、コロナ禍だからこそ得られた気づきであろうかと思います。別の表現をいたしますと、「当たり前に思えたことが、当たり前ではなくなった時に、何をどうしたら、よりよく生きることができるのか」、という問題を提起されたのだと思います。こうした、一定の答えが出ない、哲学的ともいえる問題についても、子どもたちなりに何となく考えたり感じたり、あるいは迷ったりしていることもあるのではないかと、思いますので、話題にされてみてもいいのかな、と思います。もしかしたら、保護者の皆様が想定していた以上に、お子さんたちが本質的な深いことを感じていることに気付かれるなど、お子さんに関しての新たな発見につながる機会になるかもしれませんね。

3学期は、お別れ音楽会や卒業式など、大きな行事もありますし、引き続きコロナ対策をしっかりとしつつも、それらの行事の教育効果を最大限発揮するために、どうすればいいのか、社会情勢が刻一刻と変わる中で、最善のことを考えていきたいと思っております。突然の変更なども、あるかもしれませんが、最高の3学期になるように、教職員一同、工夫を重ねていく所存でございます。また、そのためには、ご家庭との協力もますます重要になりますので、ご一緒に、子どもたちにとって最高の令和2年度3学期にしていければと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。